



各ユネスコ協会だより

桐生ユネスコ協会

会長 北川紘一郎

明けておめでとうございます。
桐生ユネスコ協会は昨年(一四年)が改選期ですが、一三年五月十四日(日)の総会において組織の変更がありました。

名誉会長 塚越平人、顧問 丸山邦子、相談役 百瀬皓、会長 北川紘一郎、副会長 下山進平、副会長 高柳光雄、副会長 前原勝良、事務局長 会長兼任、会計 柿沼直子、事務局次長 山下正紀、ほか理事各位の皆様です。本会は長年会長不在時期があり存続の危機が続いておりましたが、塚越前会長の就任以来組織の維持を保ってまいりました。が、何年にもわたる会員減少の後遺症はなかなか回復致しません。会員数も三十名となりました。会員増強にむけ〇九年には「ユネスコスクール研修会」、「六十周年行事」、「哲学の小径活用事業」、「桐生市文化祭・世界遺産PR」、「まちづくり支援」などの手を打ってきましたが、抜本的な会員増にはつながっておりません。一四年度は改選期をむかえ、今から新たな戦略やビジョンの組み立てを図ってゆく所

存です。

桐生は「富岡製糸場と絹産業遺産群」の絹遺産システムからは当初より外れておりましたが、一三年七月に「重要伝統的建造物群保存地区」の国の選定を受けましたので、今後は全市民的な「織物系産業都市全体」での世界遺産挑戦の夢を果たすべく、その熱意を伝えて行くために「歴史まちづくり法」などの手法をもって「群」としての登録に向かえるよう提言を続けて行く所存です。

「足尾銅山の世界遺産登録を推進する会」はこのたび森山真弓さん(元文部、法務大臣)が会長にご就任され、強力な布陣で推進を図っております。「桐生・世界遺産の会」は連携を図りながら先輩の日光市をお手本に頑張っております。本会は引き続き協働で行政、市民への啓もう活動を行ってゆきます。

「養蚕、製糸、織物、流通など」は絹産業の一体のシステムとして正しく評価される必要があります。

富岡の登録のあかつきには、「拡張追加登録」を含め、桐生の世界遺産挑戦に更なる熱意をもって攻めて行く所存です。

昨年は「群馬県登録文化財協会」の設

立を果たし、世界遺産予備軍ともいえる文化財の保存、登録の種まきを致しました。県内各ユ協の皆様にはこれらに対する情報がありましたら提供お願い致します。

桐生ユ協は本年は組織の拡充をテーマとした運営を推進してゆく考えです。

ご指導ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

太田ユネスコ協会

太田ユネスコ協会の内幕を語る機会には、滅多にないことゆえに、古株長老でもない自分の目に、歴史ある太田ユネスコ協会がどのように映っているのか、目の奥深くにある映像をスクリーンに映し出してみたいと考えてました。

誠におそれ多いことであり、除名処分にならない範囲内でスイッチONです。

定例の理事会は毎月一回、太田市福祉会館に於いて、夕食後の午後七時開会と決まっている。大体が同じ顔ぶれになる。

男性の出席者は関口会長さんをはじめおよそ四〜五人、一方の女性側は若田部局長以下およそ十人前後である。こうなる

と女性の考え一つでその日の審議結果は決定される事になるが、女性は会議中も小声でお隣同士のお喋りが楽しみの一つかも(失礼!)。こうなると会長の出番「気を付けー!」一瞬にして静寂に戻る。会長さんの声には、どこか穏やかさの漂うものがあり、厭味のない気を付けー!に聞こえる不思議な余韻がある。「へー?妻

いな、会長さんで:」これは私の目の奥の保存映像の1コマであるが、これに次いで、「会議中は(説明中は)黙って良く聞きましょう...」これは神の声です。そのあとの審議は極めてスムーズに進行される事になるが、これまた見事な会議進行さばきだと、この目に記録された。何時も良い雰囲気の中で処理されている理事会には、頭の下がる思いが一杯になって、映像として保存される。素晴らしい哉太田ユ協理事会!

もし、いつの日にかこのようなスペースを戴けるときが与えられたときには、険の映像でなく、太田ユ協の実像を紹介出来たらと思う。

前橋ユネスコ協会

1 『私の住みたい夢のまち絵画展』

市内の小・中学生を対象に、夏休み前に三年目になる絵画展の案内を各学校に配り作品の応募を依頼したところ、今年七二九点の応募があった。昨年に比べて一〇〇以上応募者が多かった。

ユネスコ活動の一環として地域文化や自然遺産を伝える運動があるが、世界的には世界遺産の保存活動がある。その活動に取り組み前に、身近な今の子供たちがどんな夢を持って日常生活しているか期待して、初回は「私の町の宝物」という計画で絵画展を行ったところ、自分の町にある神社とかお寺とか決まったものばかりの対象の絵画が集まった。そこで少し焦点を変え、子供の夢、想像力を期